

① 火花
② 文学
③ 王女

④ めだっ
⑤ つきみ

② ウ
① イ

③ ゆう(くん)

④ B
⑤ ウ

⑥ おとうさん

③ カ
① オ
② エ
④ ウ
⑤ ア
⑥ イ

④ (1 完答)
① A ウ
② B イ
③ C ア
② イ

③ らしき

④ ア 2
⑤ イ 2
⑥ ウ 1

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

① 「花」のくさかんむりを正しく書こう。「前」の上のぶぶんのようにならないように。② 「文学作品」は、物語や詩などのことである。③ 「女」を正しい筆順で書けるようにしておこう。④ 「立つ」のぶぶんがにごって「だつ」となることに注意しよう。⑤ 「月見」は秋の行事である。

② 1 ……線Cに「ごごに出發して、ばんごはんには着く」と書かれているから、ごごの、まだばんごはんの間に合いそうな時間である。

2 ———線②は「おとうさん」の心の中の声である。すぐ前の「いるよ」とすぐ後ろの「これからいにくじゃんか」が「おとうさん」のことばであることから、それがわかる。また、「いがい」と言っていることから、おどろいていることもわかる。「がっかり」が正解になるためには、本文中に、それらしいようすが書かれていないといけない。たとえば、しょんぼりしているようすが必要だが、それは書かれていない。

3 「おとうさん」の「おとうさん」が、「千葉のおじいちゃん」だと聞いて、「やっぱりね」と言っているのだから、ゆうくんのことばである。「『やっぱりね』って、聞こえた」と本文にあるが、これは「おとうさん」の耳にそう聞こえたということである。すぐ後ろの「ゆうくんのおおは見えない」も「おとうさん」には見えないということだし、3行あとの「いいながら」「ちらっと見た」の「おとうさん」である。この物語は、おとうさんの立場から書かれていることに気づきたい。

4 ゆうくんの「おとうさんにも、おとうさんっているの？」というしつもんに対する答えとしてもっとよいものをえらぶ。ゆうくんにも、うすうす見当はついていなかったから、「やっぱり」ということばになる。

5 に「おとうさん」を入れてしまうと、ゆうくんのおとうさんを「おじいちゃん」とよんでいることになってしまう。には、ゆうくんから見たよび方を入れたい。

6 ゆうくんにわかっていなかったのは、「おとうさんにも、おとうさんっているの」ということだった。それは、おとうさんが、だれのことも「おとうさん」とよんでいなかったからである。

③ 慣用句は語句の問題でもっともよく出題される。

- ① とんでんかんと、二人の人が交互に鉄を打つようすである。
- ② 昔の油売りは、ぺらぺらしゃべりながら商売をしていたと言われている。
- ③ 大きく目を見開いて怒るようすからきているとされる。
- ④ より正確には、感心しておどろくようすである。
- ⑤ 味方をする、助けるという意味になる。
- ⑥ きげんを悪くして意地になっているようすである。

④

1 Aは小島よしおさんについての話から、雑草っぱいとはどういうことかの話にうつっているところである。Bは、直前の「競争には弱い」ことが理由となって、直後の「競争のはげしい森に生えることをやめ」という内容になげているところである。Cは、「変化できることが、雑草の強さ」だと述べたあとで、「大切なことがあります」と注意をうながしているところである。

2 ———線①の直前の「もちろん」は、さらにその前の「道ばたのような、森の植物が生えないような場所に生えることを選んだ」を受けて、でも、それってそんなに簡単なことじゃないよ」とつづけるはたらきをしている。

3 「小島さんは『小島さん○○○』を大切にしている」と書かれており、「大切」ということばにピンときてほしい。4行前に『自分らしさ』を見失わないことが大切です」と書かれている。

4 アについて。最後の段落に『小島さん○○○』を大切にしている……そこが、とっても『雑草っぱい』と書かれている。イについて。雑草は「森の植物が生えないような場所に生えることを選んだ」と書かれている。ウについて。雑草の話から小島さんの話にうつるところに「自分の強みを活かす」ためには、『自分らしさ』を見失わないことが大切だと書かれていた。